

## 震災遺構3候補についての保存の意義・必要性の検討

昨年度の第3回石巻市震災伝承検討委員会において、「旧門脇小学校」「住吉公園」「中瀬北地区」の3地区が震災遺構の候補として残りました。これらの震災遺構候補について、保存を行う意義や必要性について整理します。

震災遺構の候補	震災による被害状況と現状	周辺の整備計画	アンケート調査	震災遺構としての評価	震災伝承への活用
<b>旧門脇小学校</b> 	<b>【震災による被害状況】</b> ○震災時の津波と火災により被災。校舎南側の外壁は、津波と火災により損傷、それ以外の外壁は地震と経年劣化により損傷している。 <b>【現状】</b> 所有者：土地建物共に石巻市 使用状況：校舎は立入禁止となっているが、グラウンドは高校のグラウンドとして使用中。	○旧門脇小学校を含む周辺一体は、「新門脇地区被災市街地復興土地区画整理事業」の事業区域内であり、今後、土地区画整理事業により整備が予定されている。 ○旧門脇小学校近くの南浜地区で、約48haの復興祈念公園の整備構想があり、今後、整備に向けた取り組みが進められる予定である。	○「全体を現地保存」とする意見が最も多く、次いで「写真・画像を撮影し、記録として保存」となっている。 ○残す理由として「強いメッセージ性があり、後世に伝える必要がある」が最も多く、次いで「将来の防災・減災に活かせる教訓となるから」となっている。		
<b>住吉公園</b> 	<b>【震災による被害】</b> ○地震により地盤が沈下したため、石巻の由来である巻石が水位の高い時に水没する状況となっている。また、雄島は津波により護岸が破壊されている。 <b>【現状】</b> 所有者：国 使用状況：立入禁止とはなっていないが、震災後、そのままの状況となっている。	○「いしのみき水辺の緑のプロムナード計画」において、昔を偲ばせる水辺との繋がりを重視した空間を創出し、雄島や巻石を再生する方針である。 ○住吉神社や雄島等の一体的な嵩上げ整備及び護岸整備が予定されている。	○「全体を現地保存」とする意見が最も多く、次いで「写真・画像を撮影し、記録として保存」となっている。 ○残す理由として「強いメッセージ性があり、後世に伝える必要がある」が最も多く、次いで「津波の痕跡が分かるから」となっている。		
<b>中瀬北地区</b> 	<b>【震災による被害】</b> ○地震より1m程度地盤が沈下したため、満潮時には地面が水没する状況となっている。 <b>【現状】</b> 所有者：中瀬地区は公有地と私有地があり、内海橋北側の道路部分以外は私有地となっている。 使用状況：立入禁止とはなっていないが、震災後、そのままの状況となっている。	○中瀬は津波等の自然災害から市民の生命を守るために、建築物の建築を制限する災害危険区域に指定されている。 ○中瀬北地区を横断する内海橋の架け替え及び新内海橋の整備が予定されている。また、中瀬北地区を含む中瀬地区全体を公園とする(仮称)中瀬公園の整備が予定されている。	○市民アンケートでは、「全体を現地保存」とする意見が最も多く、次いで「写真・画像を撮影し、記録として保存」となっている。 ○残す理由として「強いメッセージ性があり、後世に伝える必要がある」が最も多く、次いで「津波の痕跡が分かるから」となっている。		